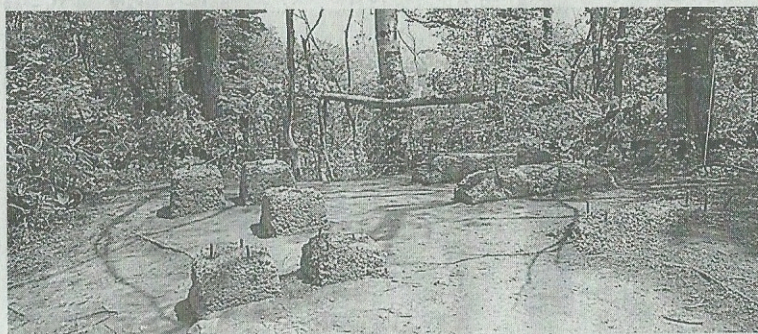


# 日本初のスキーリフト跡



## 藻岩山

### 郷土史家「砲台跡」の誤解解く

札幌市の藻岩山の北東側斜面に戦後、進駐軍の指示で開設され、1958年頃に閉鎖となったスキー場に、日本初のスキーリフトがあったことが分かり、市は中腹の登山道に案内板を設置した。跡地に残るコンクリート製の基礎は長く「砲台跡」と誤解されていたが、藻岩山の歴史に詳しい郷土史家の原田広記さん(77)が文献を集め、リフト跡と証明した。原田さんが札幌市に文献を提出し、市が案内板設置を決めたという。

### 札幌市が案内板

①藻岩山に残るスキーリフトの基礎部分 ②藻岩山にあった2人乗りのスキーリフト (いずれも札幌市提供)



同市などによると、スキー場は1946年12月に開設され、全長983メートルで2人乗りのリフトも併設された。同時期に長野県の志賀高原丸池スキー場も建設されたが、藻岩山の方が約1か月早いという。藻岩山のスキー場は環境保全のため、58年頃に閉鎖された。原田さんは大学生だった50年代にリフトに乗った記

憶があるが、地元ではいつしか、リフト跡は砲台跡と知られるようになってしまった。原田さんは「進駐軍用のスキー場として開き、日本人への開放は遅く利用者も少なかったため、知る人があまりいなかった。近くに旧日本軍の高射砲陣地もあったとされ、誤解が広まったのか」と推測する。

藻岩山を散策している登山者が基礎部分を指さして「あれが砲台跡」と話すのをしばしば聞いた原田さんは、2010年頃に一念発起してリフト跡だった証拠を探し始めた。1947年に発行された土木学会誌、リフトを納入した安全策道(滋賀県)の社史などで明らかになった。

標高220メートルの地点に設置された案内板は、初めてのリフトを備えたスキー場の歴史やコース図、リフトに2人が背中合わせで乗る構造などを紹介している。原田さんは「リフトがスキー競技発展の原点にある。冬季五輪招致の機運が高まる中、原点を知ってもらえるのは喜ばしい」と語る。